MMA Weekly Report

★★ 日経平均株価 ★★

By Raymond A Merriman

投資日報出版（株）

コピー対外配布厳禁

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町３丁目12番11号GRANDE人形町６階

No. 1174 Mar.16 2020

TEL 03-3669-0278 FAX 03-3668-4444

１．回顧

先週の相場は前週比3,318ポイント安の17,431。週の高値は９日（月曜日）の20,347、週の安値は13日（金曜日）の16,690。週の引け値は週間下値支持線を下回っていたので弱気。更に週間トレンドインディケーターポイント（ＴＩＰ）を４週連続で下回っていたので、基調は“下降トレンド”が維持されている。

２．サイクルズ

拙著『フォーキャスト2020』の中でも解説しているが、日経平均株価は17年周期の長期相場サイクルが存在。その起点は2008年10月28日の6,994。本年は起点から12年目となる。

17年サイクルは8.33年サイクルで２分割され、2016年６月24日の14,864と同年２月12日の14,865との“ダブルボトム”で前半が終了。ここから後半（第２－8.33年サイクル）が始まっている。

一方、週足サイクルに関して直近のＰＣ（通常の日柄は12～20週）を振り返ると、昨年８月の安値（８月６日、15日、26日）をトリプルボトムに、その中の８月26日の安値20,173が前ＰＣの起点。このＰＣは起点から19週目にあたる１月８日の22,951でボトムをつけ、現行ＰＣはここから始まっている、従って今週はその10週目である。

通常、ＰＣのサブサイクルはその大半が３つのMC（４～６週）で構成される３位相パターンか、２つのハーフＰＣ（通常７～11週）で構成される２位相パターンのどちらかになる。現行ＰＣの起点が１月８日とした場合、２月３日の安値は起点から４週目に出現した第１MCボトムであったという見方が出来る。更に先週の安値はＰＣの９週目にして第２MCの５週目に出現した安値であった。ただここまで大規模な下げ幅を鑑みると、現行ＰＣは（MCだけでなくハーフＰＣも混在するコンビネーションパターンである可能性も考えられるものの）ハーフＰＣ２つで構成される２位相パターンである公算が高い。なお、これに関して先週のレポートではこう述べていた“実際、この見通しは現在も有効であり、依然として上記のパターンになる可能性が最も高いように見える。もしそうであれば（１週延長する可能性も加味して）第１ハーフＰＣは４月３日までの何処でボトムをつけてもおかしくはないだろう。しかし上記の通り、既に現行ＰＣは弱気型になっている事が確定しているので、第２ハーフＰＣの天井が第１ハーフＰＣ、更には現行ＰＣの天井である１月17日の高値を超える事はない。もし超えるような事があれば、ここまでのサイクル位相の見方を見直す必要があり、基調はより強気の見方に変わるだろう。とはいえ、現時点で好ましい見方は、現行ＰＣの基調が弱気である、というものであり、同時に目下ハーフＰＣボトムを形成中という見方になる”。

現行ハーフＰＣがボトムをつけるまでに残された（通常の）日柄余地は今週も入れてあと２週間。恐らく今週ないし来週までにボトムが出現しよう。ボトム形成後は第２ハーフＰＣの天井に向けた１～３週の反騰局面が出現する。しかし、相場は既にＰＣの起点を割り込んでおり、現行ＰＣの基調が弱気に転換した事が確定している。弱気ＰＣにおける最安値はこのＰＣが終わる時、つまりＰＣボトム形成場面まで出現しない。その間、相場は高安値共に切り下がりの線形になる。また、１月17日の高値（24,115）が現行ＰＣの天井であった事も確定した。弱気ＰＣ内の第２ハーフＰＣの天井は、第１ハーフＰＣの天井でもある１月高値を超える事は出来ない。更に天井形成後は、ＰＣボトムに向けた２～５週間の更なる下降局面が待っている、という見方になる。

そして先週の大幅下落により、相場は2018年12月26日の18,948を割り込んだ。これにより、前回のレポートまで提示していた長期相場サイクルの見方が崩れる事になった。

上記の安値は、冒頭で述べた第2−8.33年サイクルの起点となるダブルボトムの前者から34カ月目、後者から30カ月目に出現した安値。ＰＣに限らず、全てのサイクルは内包するサブサイクルで２分割、ないし３分割されるので、これまで現行8.33年サイクルは３分割されていると予測。18年12月安値は第1−33カ月サイクルボトムであったと見ていた。更に33カ月サイクルは２つの16カ月サイクルで構成されていると見ていたので、2020年５月±３カ月の何処で第2−33 カ月サイクルに内包する第1−16 カ月サイクルがボトムをつけるという見通しを立てており、以前からこう述べていた“…33カ月サイクルは、２つの16カ月サイクルで構成されていると見ている。…しかし当レポートでは以前、長期相場サイクル基調の強弱が判然としなかった際、8.33年サイクルが４年サイクルで２分割されている可能性も提示していた。その際、このサイクルは３つの16カ月サイクルで構成される事になる。この見方だと、18年12月の安値はあくまで２つ目の16カ月サイクルに過ぎず、そこから３つ目の16カ月サイクルボトムが出現し、その際に18年12月安値を下回る事になる。今月は18年12月安値から14カ月目（今月は15カ月目）なので、依然としてこの見方を完全否定する事が出来ない。…以上の事から、現在は日柄的に見て（１月なのか２月なのかという）正しい現行ＰＣの起点、（第１なのか第３なのかという）正しい16カ月サイクルの存在、そして現行8.33年サイクルのサブサイクルが33カ月サイクルか４年サイクルかという正しい把握を明確化する上で重要な分岐点に位置していると言って良いだろう。…従って、現行16カ月サイクルに向けた下降局面が極めて厳しいものであった場合、これは（33カ月サイクルに内包する）第１―16カ月サイクルではなく、（４年サイクルに内包する）第３―16カ月サイクルである可能性は否定出来ない。なお、これについては今月（２月）の「MMAサイクルズレポート」の中も詳しく述べた”。従って18年12月安値を割り込んだ先週の時点で、現行8.33年サイクルのサブサイクルは３つの33カ月サイクルではなく、２つの４年サイクルで構成されている事が明らかになり、現在の長期相場サイクルの見方は、第1−4年サイクルボトムと関連する第３（最終）16カ月サイクルボトムに向けて下落している、という見方に転換している。

３．ジオコスミックス（天体位相の分析）

現行ＰＣの起点が１月である事が明確になった現在、日柄的には第１ハーフＰＣボトムを模索する時間帯に入っている。そして現在、我々は２つの重要変化ゾーン、即ち★★重要変化ゾーン（３月９日±３営業日）と★★★重要変化ゾーン（３月27〜30日±１週間）に注目する必要があるだろう。

そもそも、今回の崩落相場は前週末３月６日から先週頭３月９日にかけて出現した20,347〜20,613のギャップダウンから始まった。つまり★★重要変化ゾーンが反転ではなく加速に加味したと考える事が出来る。そうなると注目するべきは次の★★★重要変化ゾーンであろう。実際のところ、現行相場はこの★★★重要変化ゾーンに向けて上下どちらかの方向に進む、と予測する事が出来る。即ち、目先の相場が（第１ハーフＰＣボトムをつけ）反騰局面に入り、★★★重要変化ゾーンの時間帯で第２ハーフＰＣの天井をつける可能性がある一方で、このまま相場が下げ続けるようであれば、★★★重要変化ゾーンで第１ハーフＰＣボトムが出現する可能性もあるという事だ。

ただ、今回の★★★重要変化ゾーンの序盤にあたる３月20日に強力な火星・木星コンジャンクション（０度）が控えている。この天体位相は大きな上下変動に（再び）見舞われる可能性を示唆しており、それを考慮した場合、この時間帯でヒステリー（木星）がピークに達するように見え、その後に更なる厳しい下降局面が待っているように思われる。実際私自身、これまで充分過ぎる程この天体位相の時間帯に向けて相場が強力に反騰し、そこから再度下降線を辿って行く光景を目の当たりにしてきた。

ただ、先週のレポートではこうも述べている“しかし、現行相場が今週以降（厳密には★★重要変化日のオーブを離れる３月13日以降）も下げ続けるようなら、我々は３月20日〜４月７日までの時間帯（クラスター）に注目する必要があるだろう。ここでは、より強力なジオコスミックサインが８つ出現。その中には、本年11月まで都合３回シ

リーズで出現する木星・冥王星コンジャンクション（０度）の初回（日本時間４月５日）も含まれている。上記のクラスターの中心日は米国時間３月 29 日（日曜日）。従って表記上はこの日が重要変化日だが、その前後の営業日を加えた３月 27～30 日を★★★重要変化日としたい。先述の通り、重要変化日のオーブは通常±３営業日である。しかしこの★★★重要変化日も２月 27 日の時のように±１週間としたい。ただ、仮に目先の相場（あるいは先週の安値）で第１ハーフＰＣボトムが形成される（あるいは形成されていた）場合、この★★★重要変化ゾーンに向けて反騰し、そこで第２ハーフＰＣの天井が出現する可能性がある”。

またその一方で、長期ジオコスミック要因に基づく我々の長期相場サイクル見通しについては、以前からこう述べている“(2019 年 11 月の)「MMAサイクルズレポート」の中でも報告したように、1900 年以降のデータを検証した結果、木星が射手座の 10 度から山羊座の 20 度まで運行している場面の何処かで長期相場サイクルは確固たる高値を形成していることが明らかになった。これを現在の天体運行に当てはめると、2018 年 12 月 21 日から 2020 年 10 月 31 日までとなる。…木星は 2019 年 12 月２日に射手座から山羊座に移ったが、これまでこの期間中に出現した長期相場サイクルの天井の半分が木星射手座入居中に確認されていた。そして、残りの半分は木星が山羊座の 20 度に最初に通過した時間帯までに出現している。2020 年中、木星の運行は山羊座の 20 度を３度通過する。本年最後の通過は 10 月 31 日、最初の通過は３月９日である。つまり上記の記述から鑑みて、現行相場は３月９日までに何らかの節目となる高値が出現する可能性が出て来ている。しかし、それは１月 17 日の 24,115 であったかも知れない。何故なら、この高値が出現する直前、１月 12～13 日にかけて土星と冥王星がコンジャンクション（０度）の関係にあったからだ。ただし、これ以外に長期相場サイクルの基調が反転する確率が高そうな別の時間帯として、今年の金星逆行期間（５月 13 日～６月 25 日）を挙げる事が出来るだろう。実際、日経平均株価が長期相場サイクルの天井をつけた場合、（2021 年２～12 月月に３回シリーズで出現する）土星・冥王星スクエア（90 度）を要因とする、2021～2023 年に出現するであろう長期相場サイクルボトムに向け、この相場は何処かで大きな下げがあるのではないか、という見通しを、我々は未だに崩していない”。そして現在、１月 17 日の高値が（長期相場サイクル及び長期ジオコスミック要因の両面において）重要な高値であったと見なす事は出来るだろう。少なくともそれは第３－16 カ月サイクルの天井であったと思われる。その上で、目下我々の視点は５月 13 日から６月 25 日まで続く金星逆行期間に移っている。そこで一体何が起こるのか、はたして１月高値は長期４年サイクル、あるいはそれよりも長期の相場サイクルの天井として維持されるのか否か、といった点等も含めて、我々は上記の時間帯に向けて待ち構えている所だ。

４．目標値及びパターン

以前から当レポートで述べているが、２月最終週の暴落で１月 17 日高値（24,116）が現行ＰＣだけでなく現行 16 カ月サイクルの天井であった事が確認されたと我々は見ていた。更に先週の暴落によって、現行 16 カ月サイクルが４年サイクルを構成する第３サイクルであった事が確認された。更にこの１月高値は、昨年 10 月２日の高値（24,448）とのダブルトップにして２番天井、あるいはこれに昨年１月 23 日の高値（24,129）を加えたトリプルトップとして見る事が出来る。これらの線形は、現行相場がこれらの高値を突破するまでは基調が弱気である、という事を示している。なお、これに関して当レポートでは先週こう述べていた“…（１月高値が現行 16 カ月サイクルの）天井であった場合、21,532±610 に修正安目標値が設定される事になるだろう。なお、現時点で確認されているＰＣボトムは昨年８月に 20,110～20,173 の間で出現したトリプルボトムであった。この値位置もまた、現行 16 カ月サイクルボトムのサポート水準として有効と言える”。ただ、先週のレポートではこうも述べていた“しかし、今後の相場がこのサポート水準を割り込んだ時点で、現行 8.33 年サイクルが４年サイクルで２分割されている可能性が再度復活するだろう。それは即ち、現行相場が先述の 18 年 12 月安値を再度試しにかかる可能性が出て来る事を意味する。なお、上記 18 年 12 月に 33 カ月サイクルボトムが出現して以降、最も急激な下降局面は高値から 10%に及ぶものであった。現行 16 カ月サイクルがボトムをつける際、１月 17 日の高値から少なくとも 10%程度の下げがあるのではないかと我々は睨んでいる。実際にこの読み通りであれば、目先の相場は少なくとも 21,705 付近までは下がる、という計算になる”。

先述の通り、相場は既に18年12月安値（18,948）を割り込んでいる。それは即ち、当レポートでこれまで提示していた以上の長期相場サイクルが進行している事を意味している。そして、現行相場の次なる下値サポート水準は現行４年サイクルの起点である16年６月安値（14,864）と同年２月安値（14,865）のダブルボトムになるだろう。ただ先述の通り、上記の安値は同時に現行（第２）8.33年サイクルの起点でもある。今後仮にこの値位置が割り込まれた場合、現行 8.33 年サイクルが弱気である事が確定する。そうなると次なる下値サポート水準は 2008 年 10 月安値（6,994）と2009年３月安値（7,021）のダブルボトムで形成された現行17年サイクルの起点となるだろう。

私自身、現段階でこの相場がそこまで下落していくとは思っていない。何故なら、現行17年サイクルは本年１月から下降に転じたとはいえ、起点から見るとまだ節目となる高安値がまだ切り上がった強気の線形であるからだ。しかし、そうであっても修正目標値は 15,721±2,060 に設定されている。その上で、現行相場は値位置的には 13,500～15,500までの何処かで最初（にして恐らくは最終的な）サポート水準が見つかるのではないか、というのが私自身の読みである。

１月17日の高値から先週６日の安値までの下げ幅は、率にして約14.53%となった。従って、実勢相場は上記の下降予測水準を上回る下げ幅を既に記録している。

日柄的な条件はクリアしているものの、現時点で先週13日の安値（16,690）が第１ハーフＰＣボトムであったか否かについてはまだ判らない。仮にボトムをつけていた場合、第２ハーフＰＣの天井に向け、日柄的には今後１～３週間、値幅的には20,030～23,284まで上昇する可能性が想定される。また、これよりも上げ幅が脆弱な場合、値位置的には少なくとも13日移動平均を試すのみで、第２ハーフＰＣの天井に向けた反騰が終了する可能性もあるだろう。

また繰り返しになるが、週足レベルで見ると先週の崩落相場は前週末３月６日から先週頭３月９日にかけて出現した20,347～20,613のギャップダウンから始まっていた。このギャップが埋められるまで、現行相場の基調は弱気。つまりそれは、現時点においてこのギャップが目先の強力な上値抵抗帯になっている、という事を意味している。

日足移動平均は、先週も13日移動平均（22,469）が39日移動平均（22,502）を下回っており、実勢相場も引け値で両平均を下回っていた。従ってこれは、日足で見た相場基調が依然として“弱気”であるという事を意味している。ここから相場が両平均を上回ると基調は再度“ニュートラル”に格上げされ、更に13日平均が39日平均を上回ると、基調は“強気”に格上げされよう。

一方、週足移動平均は先週も24週移動平均（22,845）が39週移動平均（22,329）を上回っていた。しかし、実勢相場も引け値ベースで両平均を下回っている。従ってこれは、長期トレンド基調が依然として“ニュートラル”であるという事を意味している。ここから相場が両平均を上回ると基調は“強気”に格上げされるが、現在の状態の中で24週平均が39週平均を下回ると、基調は“弱気”へと格下げされよう。

15日スローストキャスティックスは先週末の時点で%Ｋ＝8.59が%Ｄ＝10.67を下回っている。指標は依然として極めて売られ過ぎの領域。これは、現行相場が値位置的に第１ハーフＰＣボトムの水準に既に達している可能性を示唆している。それは同時に、目先の相場が（第２ハーフＰＣの天井に向け）突発的に急反騰し始める可能性をも示唆している。

一方、15週スローストキャスティックスは先週末の時点で%Ｋ＝7.84が%Ｄ＝17.12を下回っている。指標はなおも下降を指向中。それは即ち、目先の相場が先週の安値をも下回って行く可能性を示唆している。ただし、%Ｋは既に売られ過ぎの領域に到達。それは、目先の相場が突発的な急反騰を始める可能性を示唆している。

５．テクニカル下値支持線および上値抵抗線

週間下値支持線は16,684～16,686、**15,602～15,965**、14,238、及び11,660に存在している。**週の引け値が15,602を下回れば弱気**、週の途中で下回っても、週の引け値で**15,965**を上回れば強気トリガー。

週間上値抵抗線は18,029、18,178～18,180、**19,259～19,622**及び20,008に存在している。**週の引け値が19,622を上回れば強気。**ただ週の途中で上回っても、週の引け値で**19,259**を下回れば弱気トリガー。

週間トレンドインディケーターポイントは現在 **22,284**。今週、引け値でこの値位置を上回ると基調は“ニュートラル”に格上げされよう。

強気クロスオーバーゾーンは依然として 15,546～15,882、14,919～15,779、14,813～14,919…に存在。これらはサポートゾーンとして機能している。なお、先週の暴落により 19,751～20,073、19,469～19,661、18,771～18,972 にあったゾーンは引け値で破られた。従って既に破られている 23,002～23,142、21,977～22,192、21,320～21,570 と共に、これらのゾーンは現在レジスタンスゾーンとして機能している。

今回、19,259～20,336 に新たな弱気クロスオーバーゾーンが形成された。なお、他のゾーンは依然として 22,160～23,078 に存在。これらの値位置は、目先あらゆる反騰局面における強力な上値抵抗として機能する。一方、既に破られた 16,740～16,816、16,069～16,347、14,813～15,204 は現在、有力なサポートゾーンとして機能している。

６．今週のストラテジー

ポジショントレーダは現在ショート。既に３分の１のポジションを利食いしていた。その上で先週は“23,100 以上の引け値にストップロスを入れて、残り３分の２の売りポジションを保持しておきたい。その上で、今週 19,751～20,073 にある強気クロスオーバーゾーンに達していれば、もう３分の１のポジションを利食いしておきたい”とアドバイスしていたので、利食いが出来ている。今週は 20,600 以上の引け値にストップロスを入れて、残り３分の１の売りポジションを保持。このポジションは基本となる土台が確認出来るまでの間は持ち続けておきたい。

一方、積極的トレーダも現在ショート。既にポジションの３分の２を利食いしていた。その上で先週は“残り３分の１のポジションを利食いして、19,751～20,073 まで達していればそこで買い参入を図りたい。その際、18,948 以下の引け値にはストップロスを入れておく”。とアドバイス。その結果、残り３分の１のポジションを利食いするところまでは良かったが、ドテンロングはストップアウトした。従って、現在はフラットである。今週は 20,000±200 まで反騰していれば、そこで売り参入を図りたい。その際、21,000 以上の引け値にはストップロスを入れておく。

MMA Report は、メリマン氏独自の視点から分析し、情報提供を目的に作成されております。投資の最終判断は御自身の責任で行なうようお願い申し上げます。